スマート農業イノベーション推進会議 第1回畜産・酪農プラットフォーム 会議要旨

開催日時 及び場所	日時：令和7年10月8日（水）13:00 ～ 15:00 場所：農林水産省会議室
出席者 (敬称略)	石渕大和（熊本興畜株式会社）、小林晴香（株式会社mosir 小林牧場）、平勇人（株式会社ファームノートデーリィプラットフォーム）
スマート農業技術の活用に関する出席者からの意見	**1　スマート農業技術に関する取組・課題** **（技術全般）** • 多様な経営の課題に対し、畜産・酪農**全体のDX化に向けたデータ基盤・データ統合が必要**。 • 日本においては**家族経営も多い**ため、低コストで開発され、大型投資を必要とせず、**手軽に導入できるスマート農業技術が必要**。 • スマート農業技術の**理想と生産現場に乖離**があると考えており、畜種横断的に議論することが必要。畜種に応じて違いはあるが、各畜種で活用されているスマート農業技術は、**他の畜種で参考になる**のではないか。 **（海外技術への依存）** • 畜産関連技術・機器は、**海外メーカーの主力製品に依存**している。海外製品は性能が良いが、為替変動の影響を受けやすく、**メンテナンス・サポートの体制が地方を中心に弱体化**しており、修理に必要な部品の調達に相当な期間やコストが必要になる。 • 国内マーケットが縮小する中、国内メーカーが積極的に開発に取り組み難いと考えられる。国内生産者のニーズとのギャップが課題であり、**生産者側から開発側へのニーズの発信が必要**。

スマート農業イノベーション推進会議 第1回畜産・酪農プラットフォーム 会議要旨

スマート農業技術の活用に関する出席者からの意見

2　スマート農業技術の活用に向けた生産方式や環境整備等に関する取組・課題

（生産方式の工夫）

- スマート農業技術を生産者側が使いこなせていないのは、知識不足のほか、設備面や飼養管理での工夫が十分ではないためと感じる。
- 養豚におけるスマート農技術活用の優良事例として、分娩期等を集中させた**効率的な飼養管理（スリーセブン方式）に取り組むことで、畜舎環境モニタリングや自動仕分けシステム等のスマート農業技術の効果を引き出すことができた。**
- 畜産は設備投資が重要。**規模拡大や法人経営体への転換の過程で、試行錯誤しながら技術導入**を進めることになる。自身の**経営状況をよく把握した上で導入**することが重要。

（経営判断に資する情報の不足）

- 設備投資の検討にあたり、複数技術・製品を自身で比較するのは困難。また、成功談が多く、**有益な情報である失敗談が少ないので、IPCSAで情報発信するのが良い**のではないか。個々の事情を踏まえてスマート農業技術が不要という判断もあり得る。
- 個々の経営方針に合わせた技術・製品の導入を考えると、**特定のカテゴリーごとに設備・技術特有の注意事項・課題等をまとめた情報があると有益。**
- 最終的な収支を見ていくことが重要。技術を活用していても、**費用対効果が十分であったかを検証しきれていない。**運用・アフターサービスに要する費用も含めた**費用対効果の情報も重要**である。

3　その他

- 異分野の既存技術が畜産分野に適用される可能性があるので、**IPCSAを通じて異分野を巻き込むことが重要。**
- 育種改良による母豚の多産化など、**技術の急速な進展は必然的に生産現場の変革に繋がっていく**と感じる。